

第19回福山教育フォーラム分科会 ～地域とともにある学校づくり推進校～

Ⅰ 講話「地域の中に学校を!学校の中に地域を!」

(講師:府中明郷学園 竹内博行 校長, 学校運営協議会 立石克昭 会長)

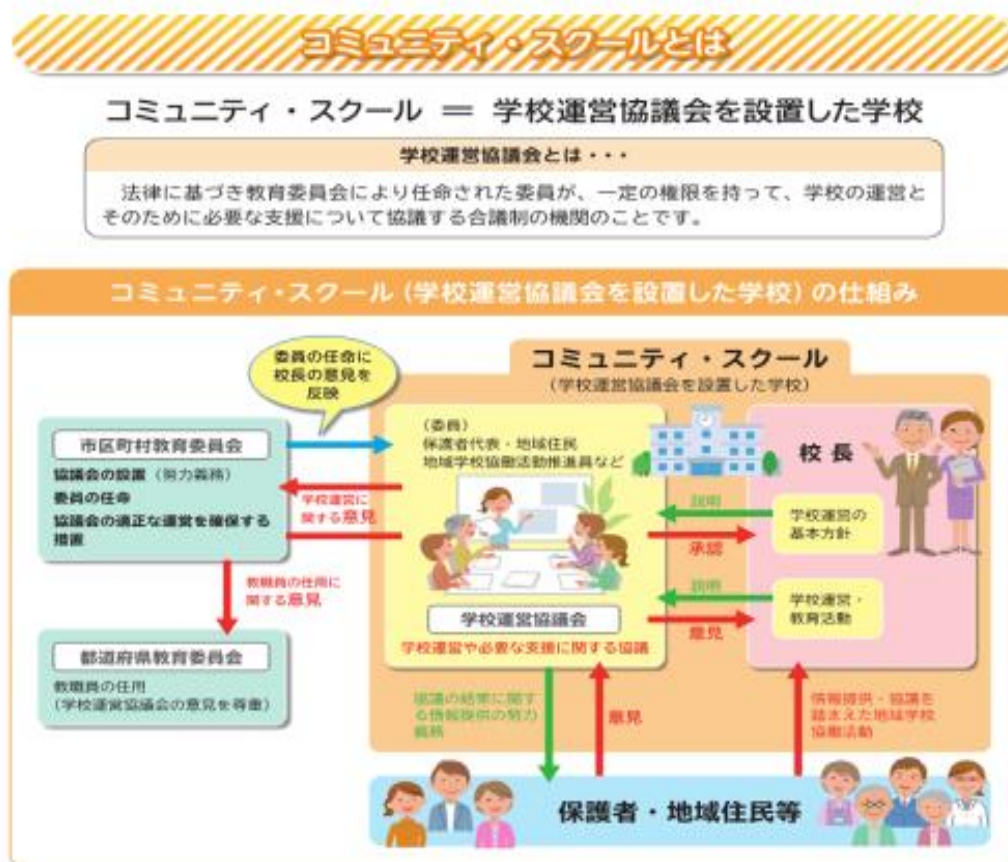
学校紹介(校長)

始めに府中明郷学園の概要をお伝えします。本校は、平成 22 年に四つの小学校と二つの中学校が一緒になってできた小中一体型の学校です。平成 29 年度に、義務教育学校へ移行しました。平成 24 年度から、コミュニティ・スクールの取組を進め、2年間、国の指定を受けました。平成 26 年度からは、府中市の指定となり、今年度で 9 年目を迎えます。

本校は現在、1～9年生まで、すべて1学級です。特別支援学級を含めて13学級、児童生徒数は260名です。各学年1学級ですので、人間関係の固定化や人前で表現することに課題があります。そんな課題を、地域とともに考えながら子どもを育てていこうと取組を進めているところです。

○コミュニティ・スクール(CS)とは (校長)

下の図は、国の資料になります。学校運営協議会を設置している学校を、コミュニティ・スクールと
いいます。学校運営協議会は法律で定められているもので、学校運営の一定の権限を持って、学校
運営とそのために必要な支援について、協議する合議制の機関であると言われています。





←この写真をご覧ください。皆さんどのよう
に感じられましたか。この写真は、府中市内
の中学校で、地域にコミュニティ・スクール
を知っていただくために、運動会でつくった
新たな種目です。

3名の大人が騎馬を組んでいます。地域
の方と学校の職員と、保護者、PTAの方で
騎馬を組んでいます。その中心に子どもた
ちがいるという、コミュニティ・スクールの姿
を端的に表したものです。大切なことは、写

真のように「学校と地域と保護者が同じ方向に向かって進んでいること」「高さを合わせること」で
す。この高さが「思い」になり、三者で「どんな子どもを育てたいか」という同じ方向を向いて、進ん
でいくことになります。そのときに大事になることは「熟議」です。



←府中市でのコミュニティ・スクールを示
したものです。府中市では society5.0 の
時代、予測困難な時代を「地域づくり」と
「学校づくり」の相互で行うことを目指し
ています。この両輪をつなぐものが、社会
に開かれた教育課程であり、コミュニテ
ィ・スクールであります。

コミュニティ・スクールの仕組みをもう少
し詳しくお伝えします。よく「うちの学校は
地域と連携しているから、コミュニティ・ス
クールを導入しなくていいですよ。」と言わ

れることがあります。しかし、運営協議会を設置しているかどうか、大きな違いです。ここは区別を
する必要があります。

その中でポイントとなるのがこの三つです。

一つ目は、校長が作成をする学校運営の基本方針に対して、学校運営協議会で承認をする。

二つ目は、学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べることができる。

三つ目は、教職員の任用に関して、教育委員会が定める規則において、教育委員会に意見を述
べるができる。

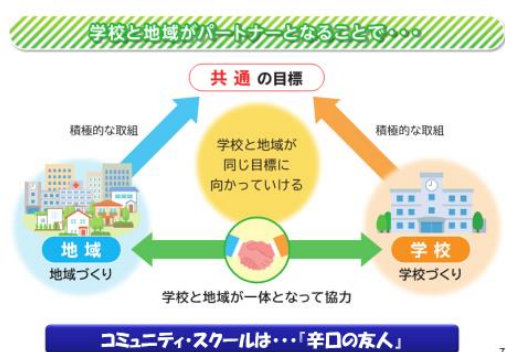
この三つが大きな柱になっています。私も4月、職員に学校経営や運営の方針を示すとともに、学
校運営協議会委員の皆さんに対しても同様にお伝えし、それを承認していただいています。府中市
においては、任用に関しては、校長を通して意見を述べると定めていますので、運営協議会の意見
等は、校長が教育委員会等に伝える流れになっています。

それでは、学校運営の方針や承認とは何かを説明します。子どもたちに求められている教育を学
校だけではなく、地域の皆さんと連携・協働して行うことが大事になります。

この前提に立った上で、承認をいただいたら、「OK」ということではなく、「Let's」であり、委員の皆さんには一緒に動いていただきます。

例えば、川岸から船が出るときに、委員の皆さんが行ってらっしゃいと船を見送るのではありません。一緒に船に乗り込んで、オールを漕ぐ人がいたり、舵を取る人がいたりするなど、学校が進む方向へ一緒になって取り組んでいただくことです。

従って、学校運営協議会は、学校運営方針に「OK」ではなく、一緒にやろうという「Let's」が「承認すること」になります。だから本校では、「承認したからには、一緒にやるよ。」という声をいただいています。



「学校運営の基本方針とは？方針の承認とは？」

「学校運営の基本方針」を承認するとは・・・

校長が作成する学校運営の基本方針をもとに、これからの未来を担う子供たちに必要な教育は学校だけで行うものではないという前提に立ち、課題や目標、それぞれの役割に関する共有・協議・修正を繰り返しながら、話し合いによる承認を行うこと（**共育目標の創造**）。

また、その目標に向けて必要なヒト・モノ・カネに関する方向性を決めること（**マネジメント**）。

「OK」ではなく「Let's」

← 共通の目標に向かって地域と学校が進んでいくことが原点になります。そのために、どのような子どもを育てたいのかが大事になります。

そして、学校と地域が一体となって協力することです。本校でも承認していただいた限りは、一人一人が当事者意識を持って関わっていただく、そして、みんなで考えて、みんなで一緒にすることを大事にしています。このように、「学校と地域と家庭が一人一人の子どもたちに責任

を持ってみんなで一緒に育てていきましょう」が、コミュニティ・スクールの方向性になります。もちろん、厳しい意見も言っていただきます。なぜなら子どもを育てる責任があるからです。だからコミュニティ・スクールは、「辛口の友人」という表現をよくします。そのような意見も運営協議会の中で出しています。

ここからは、本校のコミュニティ・スクールの実際的な取組について話をさせていただきます。

（会長）

私はこの府中明郷学園から2 kmぐらい離れたところで会社をやっています。経営者です。今から10年前、準備委員会を立ち上げるころから関わっています。校長先生の説明でコミュニティ・スクールの仕組みは大体こんなものかなとわかったと思います。先進校ということで今回、発表していますが、「最初から上手いこといっていたか」というと、そうではありません。当時の校長先生から「準備委員会に入って欲しい」と言われたとき、私も会社の経営者をやっていますから、「忙しいし、他の団体の役員もしていますから、ちょっとこらえてほしい」と考えていました。



「もやもや期」という時期があります。地域の町内会長さんや地域の方々も「もう学校にはしっかり協力しているでしょ？これ以上何を我々に望むのか」という意見がほとんどでした。私も同じ気持ちでした。自分の子どもはおらず、孫が行くぐらいですから、もう学校とは縁がない

だろうと思っていました。

実は学校側も、校長の学校方針を地域の教育の素人にゆだねて承認を取らないといけないことや「負担が増えるのではない」「時間を取られるのではない」「地域に呼び出されないか」などの思いがあり、なかなかみんなの納得を得ることは難しかったです。

竹内校長先生は、当時、教育委員会の課長でした。そのとき学校に来られてコミュニティ・スクールについて「今ある行事を増やすことはいらないですよ。今ある行事をとにかく、学校と地域が一緒になってやりましょう。お互い活性化をさせましょう。」と言われました。

私は、地域も Win になることが大事だと思います。地域は学校にいろんな協力をされています。だからこれ以上何をするのかという話になります。私は「学校も Win にする」、「地域も Win にする」ということが最も大事だと思います。

その時に熟議をして行ったことが「各地域に子どもたちを返す」という合同行事です。各地域に担当の先生もついて、一緒に行事をするためにスクールバスで各地域へ帰りました。

府中明郷学園ができることで、三つの小学校と一つの中学校が廃校になっています。その地域の人たちにとっては、大きな穴が空いています。私はこの明郷学区にいたので、あまり感じていませんでしたが、一つの学校に統合されて学校が無くなった地域の人たちは、すごく寂しい思いをしておられます。

でも、その地域の行事を行うために先生と子どもたちがスクールバスで地域へ帰ったときに、その地域の人が、「おかえり」と拍手で子どもたちを迎えてくれました。先生方も大歓迎してもらいました。その中で、地域の人が「この地域にまだこんなに子どもがおったんか」と涙を流していました。そのことを聞いて私は、「これはやらないといけないな」と感じました。そこが「もやもや期」が薄れていった頃です。

コミュニティ・スクールを進めていくうちに、子どもたちをどうやって地域の行事に参加させようかと悩みました。

そのときに、ラジオ体操のカードのようなものを作り、地域の行事に出たら、その地域のシールを貼ってもらうという取組を行いました。子どもたちもそれなりに参加してくれました。

しかし、高学年は徐々になくなりました。そのときに、「なぜ出ないのか」と聞くと、高学年の子ど

もたちは「面白くない」と言いました。そこで「どうやったら面白いと思うか」と聞きました。子どもたちは「僕らに、何かをさせて欲しい」と言いました。

そこで、町内会長さんに相談して、子どもたちの意見を聞く場を作りました。町内会長さんに学校へ来てもらい、子どもたちといろんな企画を話し合いました。（例：地域の行事でダンス、バザー、敬老会の司会を子どもたちが企画をするなど）

その取組を通して、人が集まるようになり、地域の人たちが喜びました。企画を通して、参加から参画に進化していきました。

私は、このように地域を通して子どもたちの成長が見えるコミュニティ・スクールを地域の人にわかってもらうために「地域の中に学校を、学校の中に地域を！」の合言葉を考え、コミュニティ・スクールを浸透させていこうと頑張っています。

○ 学校運営協議会の説明(府中明郷学園の例)



学校運営協議会の組織図です。学習支援部会・安全環境部会・地域活動部会があります。三つの部会に運営協議員の各副会長が入り、部長をやっています。

また、企画委員会というものもあります。事務局は学校の教頭先生がやってくれますが、企画委員は以前ありませんでした。企画委員会ができる前は、学校がすべて議題も決め、プリントも準備し、司会もすべて

学校がやっていました。

でもこれでは学校運営協議会の意味がないと思い、学校に相談して、企画委員会を立ち上げました。企画委員会は、校長先生、教頭先生、会長、副会長が集まって、学校運営協議会を開く前に行います。そこで事前協議をします。（例、今の学校の課題と地域の課題から今回のテーマを決めたり、学校から地域に頼みにくいことを相談したりする）

学校運営協議会の司会も順番で副会長がやっています。学校の負担もあるかもしれませんが、学校の運営がやりやすくなるメリットも大きいです。各部会を紹介します。

・学習支援部会の紹介(会長)



いろんな学習を行うときに、地域の方が入っています。まさに、「学校の中に地域を！」です。

（例：昔話や読み聞かせ、ウナギのつかみ取り、栽培方法の伝授など、本物に触れることをしてもらう。）

その他に、幼保小連携の取組のひとつとしてスタートカリキュラムに取り組んでいます。



スタートカリキュラムは、新入生児童が早く学校生活に慣れるために地域のボランティアスタッフがサポートする活動です。入学式翌日から、1年生が登校して朝の会が始まるまでの時間に、地域のボランティアスタッフと一緒に遊んだり、絵本を読んだりして、学校での1日が楽しく始められるようにしています。

・安全環境部会の紹介(会長と校長)



協議会の中で、「先生方にとって負担になることを出してください」という呼びかけから出た意見なども参考にしながら活動をおこなっています。

(例:平成 30 年の豪雨災害のときに、教師が子どもたちのために動けるように、地域の方たちが学校の片づけを行った。また、校内のワックスがけ、草刈、机の天板の直し、通学路の安全確認と声かけなど)

・地域活動部会(会長)



地域の町内会長に来てもらい、子どもと一緒に、地域ごとにわかれます。このとき先生も担当の地域にわかれて入ります。町内会長から「今年の行事はこんなことをやるんだ」という提案を受け、子どもたちがやりたいことやできることなどを協議し、一緒に考えます。(例:地域の祭り、敬老会の司会など)

○ 府中明郷学園のカリキュラム

(校長)

本校のカリキュラムを紹介します。生活科と総合的な学習の時間を中心として、9年間すべての学年で、地域の方に入ってもらいます。コミュニティ・スクールとしての取組を教育課程の中でやっているといった状況です。

例：1・2年生→学校の周辺の町探検をしていく生活プロジェクトの実施

3年生→地域の観光資源(オオムラサキ、三郎の滝)をもとに学びを深める。

4年生→福祉を中心に地域を学ぶ。

5年生→田植えなど、地域の農作業体験。

6年生→地域の企業見学を中心に取組を進めている。

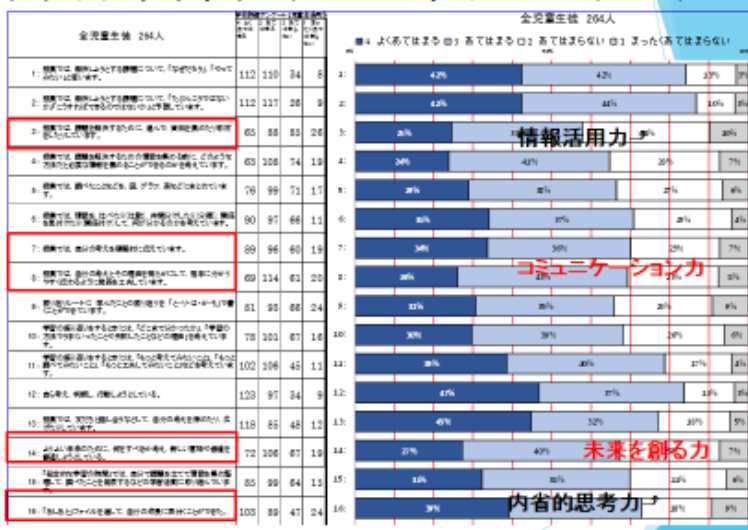
7年生→6年生からのつながりで、地域の職場体験を実施。

8年生→6,7年生の経験を持って、模擬会社に挑戦する。

9年生→これまでの経験をもとに、自分たちで新たな提案をして地域へ貢献していく。

このような取組を系統的に行い、9年間を通して子どもたちを育てていきます。その際に、すべてコミュニティ・スクールが関係しています。

府中明郷学園の児童生徒実態 (R3)



←子どもたちの実態を把握するものです。子どもの実態から取組をスタートすることが大事になります。本校では、情報活用能力、言葉での表現、内省的な思考力、さらに未来を創る力、に課題があります。子ども達の資質能力を伸ばすために、現在も系統的に取り組んでいます。

先ほどカリキュラムの紹介の中にあつた8年生の模

擬会社について説明します。7年生で会社を設立して、8年生でその取組を1年間継続します。この取組で、子どもたちが大きく変わります。この取組には、会長が大きく関わっていますので、会長から説明いたします。

(会長)

模擬会社といっても、ほとんど本物の会社のようにやっています。今年で三年目になります。一年目の会社名が Crale、二年目が Happy+, 三年目が Links です。子どもたちが考えた会社です。三年前、校長先生から会社設立の相談をされたことがきっかけです。

この先、Society5.0, AI, IoTの世界に子どもたちが入り込んでいきます。今までの教育では、対応できない状況になります。

我々企業側も「考える力」や「自分の思ったことをきちんと相手に伝える力」をもった人材が欲しいと考えています。これからの世界に対応するためにも、このような力を育てていきたいと考えています。私は、教育の視点でこの模擬会社の取組に賛同しています。物の開発や販売などの実践も行いますが、目的は「教育」であるということを忘れずに行っています。



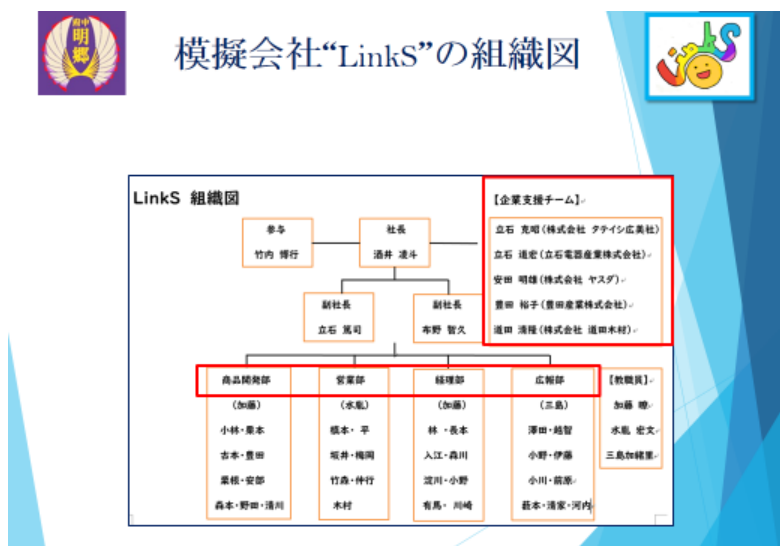
←子どもたちが考えた模擬会社 LinkS の経営理念です。企業経営で一番大事なことは、経営理念です。「何のために経営をするのか。」が重要です。これを子どもたちにも考えてもらうため、私が経営理念の授業に入りました。その時に「近江商人」の話をしました。「売り手よし・買い手よし・世間よし」という話をしました。

ビジネスは売り手と買い手が納得したら、商売が成り立ちます。しかし、近江商人は

「売り手よし・買い手よし・世間よし」の三つのバランスを大事にしています。授業でそのような話をし、子どもたちに経営理念を考えてもらいました。

「お客様、地域と会社がつながって一丸となり、社会に貢献する～自ら考え判断し行動することで笑顔と感謝の虹をかける～」

中小企業の社長でも思いつかないような経営理念を考えてくれました。自ら考え判断し行動すると書いています。まさに我々が目的としている教育を、子どもたちが捉え、言葉にしてくれました。私はそのことをとても嬉しく感じました。



←社長、副社長、それから商品開発部、営業部、経理部、広報部という四つの部署があります。私たちは企業支援チームとして複数の企業で支援をします。先生方は、一般企業のことをご存知ないので、我々企業が入って支援チームを作り、進めています。

実際に企業が入って、「こんな商品じゃ売れない」、「これ人件費はどうなっている

の?」と指摘をします。各部署でいろんなアドバイスを専門家がを行っています。

7年生の初めの頃は、プレゼンのときも下を向いたり、画面ばかり見て資料を読んだりして終わっていました。

しかし、8年生の終わり頃になると、手振り身振りもつけてプレゼンができ、声も通るようになりました。積極的に自分の考えを伝えるようになりました。

一つの例をあげると、会社のマーク(右図)があります。これはほとんど発表も話もしない、もの静かな女の子がデザインしたものです。このデザインが名刺やホームページ、パンフレット、商品など、いろんなところに使われました。そのことがきっかけで、その子は自信を持つようになりました。そして、他の授業でもどんどん手を挙げて、自分の意見が言えるようになりました。



このように、地域が関わることで得られた教育成果もあります。まさに子どもが生き生きとしている質の高い授業です。



←引継ぎ式の写真です。会社は事業を引き継いでいきます。この写真に写っているほとんどの大人は、先生ではなく、企業の方です。いろんな企業が参加をして下さるおかげで、引き締まった引き継ぎ式になります。

終わりに(校長と会長)

(校長)

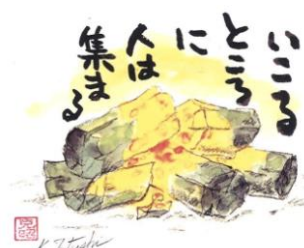
このような取組を9年かけてやってきましたが、毎年、新たな取組を進めています。委員の方が率先して新たなことに挑戦していただいていることが、今の運営協議会が継続できている要因ではないかと思います。

一昨年、本校に「むらさきラボ」という部屋を作りました。ここは、地域の方が自由に来て、子どもたちと触れ合う目的で作られた場所です。いずれはここへカフェを作って、地域の方、職員、子どもも自由に来て、いろんな話をしてもらおうと考えています。その中で、地域の方に学校の中を自由に見ていただくように考えています。

このような取組を通して、地域の方にさらにコミュニティ・スクールを知ってもらいたいと考えています。

(会長)

炭(右図)の絵があります。こういう状態になったことをこの地域では、「いこる」といいます。コミュニティ・スクールはまさに炭を「いこす」時と同じです。コミュニティ・スクールを始めたときは、真っ黒い炭で火をつけようと思ってもなかなか「いこり」ません。少しずつ、「いこって」きて周りの炭にちょっとずつ、ちょっとずつ広がっていきます。バーベキューするときに、「いこっていない」炭の上ではしません。「いこっている」上にはいろんなものをのせて焼き



ます。人も一緒に、「いこっていない」炭の上では誰もきません。これと同じように、私は地域の人や教職員や、関係者がみんなで「いこって」協力してやっていくことがすごく大事だと思います。

また、新しい炭を常に入れていくことも大事なことです。同じ炭では、いつか消えてしまいます。常に新しい炭（委員さん）を入れていくことが大事だと思います。

これから私たちは「いこる明郷学園」をつくっていきます。皆さんの学校も、コミュニティ・スクールを活用して「いこる学校」にしていだけたらと思います。

2 質疑・応答

質問（鞆の浦学園）
地域の方にきていただくために、むらさきラボをカフェにしたいと考えられているということですが、カフェの運営は生徒が行うのか、地域の方がされるのか？
回答（立石会長）
子どもは関わりません。遊びには来ます。ボランティアの地域の方にやってもらうように考えています。今のところ地域の方が見つかっていないのが現状です。 理想は、幼稚園や保育所がすぐ近くにあるので、その保護者の方に交代でやってもらえるといいなと思っています。 理由は、これから学校に入る子どもを持つ保護者の方に、この学校を知ってもらい、この学校を良くしたいという思いをもって関わってほしいからです。その理想に向けて、今頑張っていこうと思っていますが、コロナの関係もあり、飲食が出せないという残念な状況です。
質問（至誠中学校）
二点お聞きします。一点目は、コミュニティ・スクールのポイントとして、委員の皆様をどのように選任していくかということが、一つ大きなポイントだと思うのですが、どのようにされていますか。 二点目は、地域の方との行事を活発にしていくことと、教職員の働き方改革についてのバランスをどのようにとっていますか。
回答（立石会長・竹内校長）
委員の選出について（立石会長） 三点あります。 一点目は、学校と協議をして、それから教育委員会にも入ってもらったりして、「どんな子どもを育てるか」という目指す子ども像が一緒の人を選んでいくことが大事だと思います。ここがそろってないと、バランスが崩れてしまいます。例えば、地域を良くしていくことに重点を置いている方は、学校のことも地域のことだけを言われます。（例 地域行事へ過剰に子どもや先生の参加を求めるなど） だから、地域も学校も同じ目線で「どんな子どもに育てたいか」という目指す子ども像を一緒にできる方を選出するのが一つです。 二点目は、多様な人たちを選ぶことです。経営者もいれば、公務員の方、若い方、男性、女性、主婦の方など多様な人たちの意見を反映することで、意見の固定化を防ぎます。 三点目は、充て職にしないことです。町内会長さんや公民館の会長さんに入ってもらっても、その方が変わったらまた組織が変わってしまいます。子どもをどう育てたいか意識が統一でき

る人たちが入っておくことが一番重要です。

働き方改革について(竹内校長)

子どもの課題を学校だけで解決できるものもあれば、地域や家庭等の問題も関わっている部分もあります。そのような問題は、学校のみならず、地域の方にも入ってもらうことで対応できることがあります。これは大きなメリットです。

地域の中に出ていく活動もありますが、年間では限られたものです。教員が地域へ出ていくことによって、子どもたちの学びにかえてくるメリットもあります。そういう意味では、負担感ととらえるよりは、子どもたちの学びに大きく返ってくるというとらえの方が、大きいのではないかと思います。

また、校長として子どもが育つ喜びもありますが、地域と関わることで、教員が成長して育つという喜びもあります。

地域の方と触れ合うことで子どもたちが成長するとともに、同様に私も含めて、教員が成長します。その成長した教員がまた子どもを育てていくという好循環が学校の中に生まれてきているように思います。このように非常にメリットの方が大きいと思っています。

(市教委)

質問の中で、運営協議会の人選という話がありましたが、今年度、実際に導入している鞆の浦学園の宇根校長はどうされていますか。

(鞆の浦学園 宇根校長)

これまでの学園とのつながりもあって、鞆に在住の方、或いは、読書ボランティアの方、大学の先生、保護者の方など様々です。町内会やまちづくり委員の方をお願いしようとも思ったのですが、いろいろな役を抱えておられるということもあって、選んでいません。

最終的には、男性4名、女性4名という人選になっています。

3 実践発表

(市教委)

先ほどの話の中で「どんな子どもを育てるか」という共通する部分で、人選を行っていくとありました。

実際に今年度、コミュニティ・スクールをスタートしている学校にスタートしてからの課題も含めて、発表をお願いしたいと思います。それでは、想青学園、お願いします。

【想青学園】

実践報告の前に、まず本校の学校の紹介をさせていただきます。

本校は常石小、千年小、能登原小、内海小、内浦小の五つの小学校と、千年中、内海中の二つの中学校が再編されて、今年の4月に義務教育学校として開校しています。

○ コミュニティ・スクール導入までの経緯

想青学園では「かかわる つながる」をテーマとし、児童生徒・保護者・教職員・そして地域住民がかかわり、つながること、地域の発展や子どもたちの、健全な育成を目指して教育活動を行っています。

本校は開校と同時に、コミュニティ・スクールを導入しています。

しかし、最初は教員、地域とともにコミュニティ・スクールのイメージが全くわからない状況で、何から手をつけていいのかわかりませんでした。その状況下で、5月に府中明郷学園へ視察に行きました。この視察には教員だけでなく、学校運営協議会のメンバーも一緒に参加しました。

その後、教職員全員にコミュニティ・スクールについて知ってもらうため、府中明郷学園の立石会長、末房副会長を講師としてお招きし、コミュニティ・スクールについての職員研修を行いました。

これらの活動で、コミュニティ・スクールの大まかなイメージについて持つことはできましたが、本校ではまだ実動には至っていない状況も続いています。手探りの状況ではありますが、その状況を打開するためのキーとなる活動の一つが、4月からスタートした新教科「SOSEI 学」だと考えています。SOSEI 学とは地域の歴史文化、産業、自然など子どもたちが着目した視点に基づいて柔軟に展開する探究活動です。前期課程では、ふるさとを様々な角度から学んで、後期課程では、そのふるさとについての調査分析を進めます。そして、最終学年での地方創生につなげていきます。

○ SOSEI 学の授業実践

ここからは、1学期に取り組んだ SOSEI 学について一部紹介します。

6年生では、文化・歴史を引き継がれている各地域の公民館長さんと対話を行って、館長さんが今困っていること、そして6年生も自分たちでできることはないかなどの質問を行いました。

そして、聞いたことをもとに、地域の課題を整理して、大きい課題は何か、6年生が解決できるものは何かを分析しました。現在はその分析をもとに、「楽しめる地域清掃を行う」、「地域を巡る散歩コースを作る」など、自分たちにできることを計画しています。

7年生の SOSEI 学では、生徒が地域の魅力を探し、それぞれが探究したいことをもとに、20名ずつの5グループをつくりました。現在はこのグループごとにテーマを設定し探究活動を行っています。文化・歴史グループでは、江戸時代から残る枝広邸にフィールドワークにいき、地域の方から話を聞きました。特産品グループは、道の駅アリスト沼隈を訪問し、まだ知らない特産品を見つけたり、店の方から探究についてのアドバイスをいただいたりしました。2学期以降は、1学期に行ったフィールドワークの範囲をさらに広げて、調査を続行し、地域で魅力を発信していきたいと思っています。

その他の学年も SOSEI 学に取り組んできました。子どもから出た意見やこれまでの協議のノウハウをもとに、探究を進めてきました。

今後は、この SOSEI 学をコミュニティ・スクールの学校運営協議会に相談を持ちかけ、アイディアをいただいたり、SOSEI 学のカリキュラムと一緒に協議したりするなど、地域とさらにつながりたいと考えています。

また、教員が地域への理解を深めるために、フィールドワークを行いました。それを通して地域には、子どもたちの探究心をくすぐる魅力的な地域資源が無数にあること、地域の方の「ふるさとを大切にしたい、そして子どもたちを育てていきたい」という思いがあることを知りました。まだまだコミュニティ・スクールは手探り状態なのですが、この SOSEI 学を足がかりとして、コミュニティ・スクールのそれぞれの部会を実働させていきたいと考えています。

まだ、道半ばではありますが、地域とともにある想青学園を目指して地道に取り組を進めていこうと思っています。以上で想青学園の実践報告を終わります。

○府中明郷学園への質問

(市教委)

今年度、スタートしたからこそわかる良さや、悩んでいることなど、先進校である明郷学園に聞きたいことがありましたら、お願いします。

(想青)

今、1学期にコミュニティ・スクールの立ち上げができました。府中明郷に視察に行ったときに、このコミュニティ・スクールを機能させることが、地域にとっても子どもにとっても、教員にとっても良い仕組みなのではないかなと思いました。

ただ、この魅力をどうやって保護者や地域の方に知ってもらうかが、今、困っているところです。誰がどのように広めていくのかというところをアドバイスいただけたらと思います。

(会長)

実は我々もそこは大きな問題に感じています。10年経っても、まだまだ知らない方が多いです。地道に学校だよりを出したり、回覧板を回したり、いろんなことをやっています。

大事なことは今、自分たちがやっていることの成果を上げて子どもたちの成長が見えることです。

また、今若い人が運営協議会に入ってくれています。今、明郷学園の公式 Line を作ろうと進めてくれています。QRコードで読んで、地域の方々に、どんどん使ってもらい、リアルタイムな広報をやっていこうと考えています。これは若い委員が入ってくれているからこそできるものです。そういう委員たちのアイデアもどんどん取り入れてやっていきたいなと考えています。私たちも同じ悩みをもっているところです。

(校長)

最初、地域の方は、また何か新しいことをやらせるのかという思いを持たれていました。

学校も、地域の方に入っていたら、何か言われるのではないかという思いが、最初にありながら、熟議を重ねてきました。

しかし、転換期になったのは、子どもと一緒に熟議に入ったことです。地域や先生が「子どももやるじゃないか」というような実感から、ちょっと変わってきたかなと思います。そんなことを繰り返してきて、何か変化が出たといったような状況です。

(想青)

まずは熟議からスタートかなと思ったので、地域の方と子どもたちも含めて熟議できる環境を作っていきたいなと思っています。ありがとうございました。

(市教委)

義務教育学校を開校して、4年経つ鞆の浦学園にも、内容を説明していただこうと思います。宇根校長よろしくお願いします。

【鞆の浦学園】

○ これまでの学校の取組

これまで鞆学に外部人材を呼んで関わっていただいていたのですが、それ以外の授業でもプロボノメンバーという地域の専門家と呼ばれている方や地域以外の方にも来ていただいています。

また、図書ボランティアも毎週月曜日に15名ほど、参加していただいています。

さらにチャレンジウィークです。昨年度は8年生だけやっていましたが、今年は7年生と8年生が合同で、14の事業所に行かしていただきました。

また、6年生と9年生で、鞆の浦の良さを知ってもらおうとボランティアガイドをしています。

さらに、毎週火曜日に地域の清掃活動もやっています。

そして、子どもたちも地域も元気にするという目的で、子どもたちの作品等を民俗資料館や病院、さくらホームやひろぎんなどに展示をさせてもらっています。

○ コミュニティ・スクール導入までの経緯

コミュニティ・スクールを導入することが目的ではないということを、昨年度末の学園だよりにも書き、保護者や地域の方に説明をしました。学園だよりに、「学校運営或いは教育内容の質を高めるため」と書きました。子どもたちが一生懸命いろんなことに取り組んでいる姿で勝負ができ、その質をさらに高めていきたいと考えています。そこにコミュニティ・スクール導入の目的があるということを何回も繰り返し伝えていきます。

委員の方には、気軽に学校に来て、子どもたち、職員の生の姿を見ていただきたいので、参観日や学校行事があるとき以外にも来てもらっています。子どもたちの姿から、いろいろな意見をいただき、変えられるところは大きく変えていきたいと考えています。

コミュニティ・スクールの部会は作っていません。部会に縛られたくないというのがあり、スタートして子どもたちと委員さんに現在、対話をしてもらっています。今後の活動によっては、部会も検討しながら、鞆の浦版のコミュニティ・スクールを作っていきたいと考えています。

○ 1学期の取組

1学期の取組を紹介します。

【例：読み聞かせボランティア、アマノフーズによる食品加工、中国新聞（山川記者）ボランティアガイド（宮本さん）、栄養士（川崎先生）、大学・専門学校への訪問
防災教育（横浜国立大学：細田先生）】

（市教委）

鞆の浦学園は、義務教育4年目ということで、今まで地域の人が学校に入っています。そして交流もすでにできている状況です。その中でコミュニティ・スクールの取組にもつながっているということもありますが、鞆の浦学園で、大切にしていることは何かありますか。

(鞆の浦)

子どもたち、そして教職員がいろんな場面で思いっきり楽しんでいるというような姿をこれまでも追いかけてきました。そのような姿を地域の方や保護者とも共有して一緒に喜んでいただけたらと考えています。子どもも成長を実感できる授業や教職員も様々な教育活動を通してやりがいや自らの成長を実感できるものにつなげていきたいです。

これまで外部人材を活用し、多くの方に来ていただいています。これはキャリア教育にもつながっていくと思います。府中明郷でも会社を作る活動を通して「自分が大きくなって何ができる」「何がやりたい」というように、いろんなことがつながっていくと良いと考えます。

(市教委)

今日の発表で府中明郷学園は、コミュニティ・スクールが始まって9年目、想青学園や鞆の浦学園は今年度からというところです。

各校、様々な取組があり、年数も違いますが、このコミュニティ・スクールを考えていく上で、重要だと思われることがありましたら、意見をいただきたいのです。

○ 府中明郷学園への質問

(鞆の浦)

それぞれの学校は、それぞれの地域がありますし、抱えている状況もあります。

地域の課題や良さをもう一度、洗い出してみて、何かこれならできそうだというものを実感できたらと思います。

導入することが目的では絶対にはないと思います。結局、子どもたちや地域や教職員、すべてが元気になる、成長を実感できることが一番大切だと思っています。だから、その視点を絶対ぶらさないようにしたいと思っています。

明郷学園の校長先生に質問です。私は「これでいいのかな」と思いながらここまでやってきました。

昨年9月の議会答弁で、学校運営協議会、コミュニティ・スクールを導入しますということを初めて知って何ができるかと考えていました。「方向性は間違っていないよな」と思いながら今日の説明を聞きました。校長先生が、或いは会長さんは「これでいいのかな」というようなことはありますか。

(校長)

宇根校長先生が言われたように、我々も一緒です。今も、そんな思いはずっと持ち続けています。毎年、新しいことがつくられていくのですが、最初のときと何も変わりません。

何かみんなで考えてどうしたらいいかということを常に持ちながらやっていっている状況です。何かできると、また次の新たな課題などが出てきます。

だから毎年、「これでいいのかな」と考えながら、地域の皆さんと一緒にやり続けているのが正直なところです。

でもその中で、無理せずにコツコツとできることをみんなでやって、継続をしてきました。また、地域の皆さんもやりっ放しでは終わっていません。単によかったではなく、どうしてうまくいったのか、何がいけなかったのか、などの振り返りがあります。それを次につなげているという状況です。

だから、1年目の悩みの質が変わっただけで、1年目で思っていたことは、未だにずっと継続しな

がら、より良くしていくということが続いています。それが子どものためにもなるし、地域のためにも、学校のためにもなっていて、徐々に広がってきているかなという思いです。

(会長)

「よくやられますね」と周囲に言われますが、私はボランティアだと思っていません。まさにこれは、「地域の投資」と思ってやっています。

子どもの事情など各地域、すべて事情が違います。この地域(府中明郷)では、どんどん子どもが減ってきています。この地域で会社をしているものからすれば、「この地域に子どもを残していきたい」、「この地域に帰ってくる子どもたちを作っていきたい」ということを考えています。

だから私は、立派な投資だと思って、このコミュニティ・スクールに関わって模擬会社をやっています。そういう意味で、新しいことに常に取り組んでいます。課題がどんどん変わってきていますし、子どもや国に求められるものも、どんどん変わっています。その度に、一緒になって取り組むことです。会社も、同じことを繰り返していたら、必ず倒産になってしまいます。常に新しいことにチャレンジして、その地域に合った課題を一緒になって解決していくことが大事だと思います。

(市教委)

それでは、私の方から1点質問させていただきます。明郷学園の方で「もやもや期」という状況があったと聞きました。その「もやもや期」から脱したターニングポイントや、ここが一番変わったポイントだったということがあったら、教えていただきたいのです。

(校長)

最初は、熟議を委員の皆さんと、教職員がやっていたのですが、そこへ子どもたちが入ってきたことです。町内会長さん等とお話をするようなことも含めて、子どもとの熟議の中で、子どもたちの行動や可能性といったことも、地域の皆さんにも理解いただいたし、学校側もそういった思いになったことです。そこがきっかけとなって、参加から参画になっていったのではないかなと思います。

(会長)

模擬会社をやり始めてから子どもの成長がすごく見えます。子どもの成長が見えると、我々はすごくやる気になりますし、先生方もすごく変わります。一緒になってやっているなという一体感をすごく感じさせてもらっています。

また、4月1日の職員会で30分間、時間をとってもらって、私と副会長でコミュニティ・スクールの説明を新たに来られた先生方にしています。そうすることで、新しい先生にも伝わるし、校長よりも説得力が増すらしいです。これも1つの成果だと思っています。

(市教委)

ありがとうございました。今日はいろいろお話をお伺いして、やはりそういうターニングポイントというの、もとは子どものためにみんながどうするかということをしっかり考え始めたというのが一番のターニングポイントだと感じました。

福山市も、今年度から導入して次年度からも随時導入していきます。地域や学校の事情・状況等

は様々ですが、中心に子どものことを置いてどうしていくかをみんなで本気で考えていく。やり方は様々だと思います。そういったことを、今日教えていただいたように思っております。

休憩後、各校で「コミュニティ・スクール導入後、どういったことをしていきたいか」ということ協議していきたいと考えております。

4 各校での協議

(市教委)

2校ほど簡単に説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(新市中央中)

- 本校は常金中学校と再編したということもあって、今、コミュニティ・スクールの導入を考えていくと、地域の清掃であったり、総合的な学習であったり、9教科の授業の中で、地域の人材を活用させていただくという動きができるという話ができました。当然、地域の方をお願いするというだけでなく、生徒が住んでいる地域に活動で返すことができるのではないかと考えています。

また、校内の2階に多目的室という大きな部屋があります。一般の方にも入ってもらい、常金丸の資料を置いたり、地域の方が個人で出入りしたりできるようなスペースにしようという話も出しました。

(神辺小)

- 地域に、神辺本陣や廉塾などの歴史や文化財があります。そういった地域の素材を活用して、歴史学習を取り入れていきたいという話になりました。

また、近隣に小中高と学校が複数あるので、地域と併せて学校間の連携もしていきたいという話ができました。

(市教委)

福山市では、中学校区で導入をしますので、中学校区でコミュニティ・スクールの内容についても、ぜひお話をいただきたいと思います。

なお、今日話し合った内容につきましては、共有シートで、他校のこれからやっていく取組を共有できる形にしたいと思いますので、ぜひ、協議の参考にさせていただきたいと思います。

それでは、長時間にわたりましたが、分科会の方を終了します。